

ガンビア：政治情勢に関する情報

ガンビアの「政治情勢：ガンビアのジャメ元大統領政権下（1994年から2016年頃）において、政府に批判的な政治家やジャーナリストを、大統領に忠誠を誓うジャングラーズ（特殊暗殺部隊）を利用して弾圧していたという事実があるか；2016年以降のバロウ大統領政権下において、真実和解委員会が設置されたものの、その提言が実行されていないことや、ジャメ元大統領の政党である愛国再建同盟（APRC）の議員らに重要な役職を与えるなど、ジャメ元大統領の派閥と癒着がみられるといった事実があり、人権が守られない状況があるか」に関する調査依頼に対し、難民研究フォーラムが規定の時間的制約の中で調査したところ、関連しうる情報として以下の情報が見つかりました。

略称：	1
1. 旧政権期のジェングラーによる野党政治家や政府を批判する者への弾圧	2
2. 2016年以降のバロウ大統領政権と旧政権メンバーとの関係	4
(1) 一般的な政治情勢等	4
(2) APRC 所属国会議員等の状況	7
(3) ジャングラーズの状況	9
(4) 真実和解・賠償委員会の報告と司法当局の対応	11
参照：	12

略称：

APRC	愛国再建同盟 [Alliance for Patriotic Reorientation and Construction] (ガンビア)
BAMF	ドイツ連邦移民難民庁 [Bundesamt für Migration und Flüchtlinge]
CPJ	ジャーナリスト保護委員会 [Committee to Protect Journalists]
EASO	欧州難民支援機関 [European Asylum Support Office]
HRW	ヒューマン・ライツ・ウォッチ [Human Rights Watch]
NIA	国家情報局 [National Intelligence Agency] (ガンビア)
OFPRA	フランス難民・無国籍庇護局 [L'Office français de protection des réfugiés et apatrides]
RFI	ラジオ・フランス・インターナショナル [Radio France International]
TRRC	真実和解・賠償委員会 [Truth, Reconciliation and Reparations Commission] (ガンビア)
WIKP	ポーランド移民庁 [Urzędu do Spraw Cudzoziemców] 出身国情報部門 [Wydziału Informacji o Krajach Pochodzenia]

1. 旧政権期のジャングラーによる野党政治家や政府を批判する者への弾圧

ア OFPRA「[ガンビア：ジャングラーズ](#)」（2021年9月27日）<EUAA COI Portal 収録>

概要：ヤヒヤ・ジャメ前大統領（1994～2016年）の22年間の統治は、数多くの人権侵害を特徴とした。「ジャングラーズ」として知られる準軍事組織は、同人から直接命令を受け、数多くの犯罪を実行した責任があると真実和解・賠償委員会（TRRC）により認定された。この真相委員会の報告書が公表された後、刑事司法対応はガンビア当局に委ねられる。

2. 大統領府指揮下の「決死隊」、ジャングラーズ

「ジャングラーズ」は、出典や時代にもよるがヤヒヤ・ジャメ前大統領 [注 10] の直接の命令に従う 15 人 [注 8] から 40 人 [注 9] で構成される準軍事部隊である。大統領警護隊 [注 11] の中から選ばれ、大部分は彼と同じ民族であるジョラ族 [注 12] の出身者で、首都バンジュールと前大統領の故郷であるカニアイ [Kanilai] 村 [注 13] を拠点としていた [注 14]。

...

RFI は、ジャングラーたちはヤヒヤ・ジャメ大統領の警護、カサマンズ川沿いのセネガル国境のパトロールや前大統領の命令による個人の抹殺など、さまざまな任務に就いていた可能性があるという指摘している [注 21]。被害者は無作為に選ばれ、一般市民だけでなく、上級公務員や軍のメンバーであることもあった。ヤヒヤ・ジャメ政権を打倒するためにクーデターを起こそうとしている人物やグループがいるのではないかという疑念が引き金になることが多かった [注 22]。

HRW によれば、ジャングラーズは「特に、イラン、リビア、台湾から頻繁かつ激しい訓練を受けた」という [注 23]。

ほとんどの国際機関や国内機関、現地 NGO や国際 NGO、メディアは、特に 2003 年から 2016 年の間、ジャングラーが多くの人権侵害の罪を犯し、長年にわたってガンビア人を恐怖に陥れていたことに同意している [注 24]。

TRRC はすでに、いくつかの犯罪の実行における彼らの責任についての十分な証拠を集めている [注 25]。ガンビアについて NGO トライアル・インターナショナルと共同調査報告書を執筆している HRW は、この部隊を「ジャメの精鋭部隊」 [注 26] 又は「ヤヒヤ・ジャメ前大統領に雇われた準軍事的決死隊」 [注 27] と評している。

注 8 RFI, 2019年8月10日 ; HRW, 2018年5月16日

注 9 EASO, 2017年12月, p.40

注 10 EASO, 2017年12月, p.40

注11 EASO, 2017年12月, p.40 ; HRW, 2018年5月16日

注12 EASO, 2017年12月, p.40

注13 カニライ村(フォニ・ボンダリ地区)は、セネガルのカサマンズ地方から近い南国境に位置する。

注14 RFI, 2019年8月10日

…

注21 RFI, 2019年8月10日

注22 RFI, 2019年8月10日

注23 HRW, 2018年5月16日

注24 RFI, 2019年8月10日

注25 ジャーナリストの名前の綴りを「デイダ・ヒダラ [Dayda Hydera]」とする情報もある。

注26 HRW, 2019年12月4日

3. 主な悪用例

国連人権理事会は、「ジャメ大統領はその統治において、国家情報局(NIA)と「ジャングラーズ」として知られる直属のグループに大きく依存し、政治的な反対意見を無力化し、不法逮捕や強制失踪、超法規的処刑、拷問を通じて国民を恐怖に陥れていた」と述べている[注30]

TRRCでの公聴会で、ジャングラーズの元メンバーの何人かは、重大な人権侵害を犯したことを認めた[注31]。HRWの報告によると、ジュングラーらは、以下に列挙する一連の犯罪はヤヒヤ・ジャメによって命じられたものと主張している[注32]。

- ・ 2004年、ザ・ポイント紙の編集長、デイダ・ヘイダラが殺害された事件
- ・ 2005年、44人のガーナ人を含む56人の西アフリカ移民が殺害された事件
- ・ 2013年、アメリカ系ガンビア人の実業家アルハジー・シーセイとエブー・ジョベが殺害された事件。
- ・ 「魔女狩り」と数人のガンビア人女性に対する性的暴力。

…

3.5. ジャーナリストへの脅迫

政府機関、主にNIAとジャングラーズのメンバーは、編集社や印刷所を繰り返し攻撃し、完全に、あるいは部分的に破壊した。彼らはジャーナリストを脅し、一時的に拘禁した。拘禁の期間は半日から数ヶ月に及ぶこともあった。編集社は一時的または永久に閉鎖された[注54]。

注30 国際連合, 2018年8月27日, p. 4-5

注 31 米国国務省、2021年3月30日

注 32 HRW, 2019年12月4日

…

注 54 EASO, 2017年12月, p. 64

ジャングラーによる人権侵害の更なる詳細は、脚注の報告書等（後記「参照」に記載）をご覧ください。

イ [コロンビア大学グローバル・フリーダム・オブ・エクスプレッション「アフリカ・ジャーナリスト連盟外対ガンビア事件」](#)（2024年2月22日最終閲覧）

事案の概要と結果

西アフリカ諸国経済共同体の共同体司法裁判所（ECOWAS 裁判所）は、ガンビア刑法における扇動罪、虚偽報道罪及び名誉毀損罪は、国際法上の表現の自由に対する権利を侵害するものであると判断した。この裁判は、ガンビアの圧政的なメディア法のもとで過去に起訴され拘禁された、アフリカ・ジャーナリスト連盟を原告代表とする亡命中のガンビア人ジャーナリスト 4 人が起こしたものであった。このうち 2 人のジャーナリストは、身柄拘束中に拷問を受けていた。ECOWAS 裁判所は、扇動、名誉毀損及び虚偽ニュースに対する刑事制裁は、「ジャーナリストの表現の自由の行使を不当に制限しかねない抑制効果 [a chilling effect]」を持つとし、ガンビアに対し、国際法に適合するよう法律を改正するよう命じた。ECOWAS 裁判所はまた、自由の権利、移動の自由の権利および拷問の禁止についての違反も認定した。ジャーナリストらには、100 万乃至 200 万ガンビア・ダラシ（2018 年時点で約 2 万乃至 4 万米ドル）の損害賠償が認められた。

2. 2016 年以降のバロウ大統領政権と旧政権メンバーとの関係

(1) 一般的な政治情勢等

ア [WIKP「ガンビアの治安状況と民間人への脅威」](#)（2023年6月6日）<EUAA COI Portal 収録>

国家元首 大統領は国家元首と政府首脳を兼ねる。任期は 5 年。[注 9]

2021 年 12 月に行われた前回の大統領選挙では、アダマ・バロウ（国民人民党（NPP））が 53.2% の得票率で勝利した。ウサイヌー・ダルボエ（統一民主党（UDP））は 27.7% の得票率で 2 位であった。[注 10] [注 11]

2016 年に行われた選挙で勝利し、2017 年 1 月に政権を譲り受けて以来、これは前述の大統領にとって 2 期目の就任となる。（参照：CCIP 調査番号 DPU-WIKP-424/316/2022、2022 年 7 月 8 日付）。

ガンビアの副大統領職は、イサトゥ・トゥーレイが務めている（2019.03.15 現

在)。[注 12]

ガンビアの次期大統領選挙は 2026 年に予定されている。[注 13]

政府と首相 行政権は大統領が任命し、大統領が率いる政府によって行使される。
[注 14]

ガンビアの立法権は、58 人の議員（直接選挙で選ばれた 53 人と大統領によって任命された 5 人）からなる一院制の国会によって行使される。議員の任期は 5 年。
[注 15]

ガンビアの直近の総選挙は 2022 年 4 月 9 日に行われた [注 16] [注 17]。選挙はアダマ・バロウ大統領の国民人民党（NPP）が 33.9% の得票率で勝利した（53 議席中、大統領によって任命される 58 人の国会議員 5 人を除く 19 議席）。第 2 位は統一民主党（UDP）で得票率 28.3%（15 議席）。3 位は無所属議員で 22.6%（11 議席）を獲得した [注 18] [注 19]。

次の総選挙は 2027 年に予定されている [注 20]。

...

紛争に関連しない民間人に対する暴力

テロリズム

最近（2022 年と 2023 年）、ガンビア領内でテロ攻撃は起きていない。[注 32]

超法規的処刑、拉致

ガンビアでは最近、このような事件は報告されていない。[注 33] [注 34]

デモや抗議行動中の暴力

ガンビアでは抗議行動が起きている。これらは暴力的になることもある [注 35]。暴動は、例えば 2021 年 12 月に行われた大統領選挙に関連して起きている [注 36]。2021 年 12 月 4 日の大統領選挙の結果発表後、数千人のガンビア国民が街頭で抗議活動を行った。統一民主党（UDP）のウサイヌー・ダルボエ、ガンビア民主会議（GDC）のママ・カンデ、無所属候補のエッサ・ファアルが選挙結果とアダマ・バロウの勝利を拒否した。首都バンジュールから 12 キロ離れたセレクンダの町のカイラバ通りをダルボ支持者の大群衆が包囲し、バロウの退陣を要求した。上記の抗議行動を鎮圧し、秩序をもたらすために、数十人のガンビア警察官が通りに配備された [注 37]。警察は催涙ガスを使用してデモ参加者を解散させた [注 38] [注 39]。

2022 年と 2023 年には散発的な抗議デモがあったものの、結果として暴動や死傷者は出ていない [注 40] [注 41]。

※ 原文ポーランド語。訳文は、DeepL プロによる日本語訳に修正を加えた仮訳です。脚注の詳細は、原文をご覧ください。

イ ベルテルスマン財団「[BTI 国別報告 2022 年 - ガンビア](#)」（2022 年）

国体〔stateness〕

…

ガンビア政府の基本的な行政機構は全国に偏在しており、一般的には、都市部と沿岸部において比較的により効果的な行政が行われている。…

…

2017年、世界銀行とアフリカ開発銀行による共同報告書によると、ガンビアの国家行政能力は過去数年間で低下し、地域の大半とは逆の傾向にあった。低下の理由として挙げられるものは、特に、大統領府への行政権力の過度の集中化、汚職の蔓延、常習的な欠勤、低賃金と不規則な管理による有能な公務員の離職などがあった。この報告書はジャメ時代の末期に関するものであるが、バロウ政権下で行政が大幅に改善されたかどうかはまだ明らかではない。行政への政治的干渉は大いに減少したが、汚職や公務員の急速な離職は依然として残っている。バロウ政権は、公務員を格付けするスコアカードの使用や、給与・等級制度の変更など、公務員改革策を導入した。

…

政治参加

…

ガンビアには拒否権を持つ特定のアクターはいない。国軍の影響力はバロウ政権下で大きく低下している。現在、ガンビアには、実際の又は事実上の拒否権を持つ企業はない。国外のドナーや宗教団体は、公人や、時には政策の方向性に対して相当な影響力を持っているが、選挙で選ばれた代表者らの実効的な統治力を大きく制限する拒否権を持つプレイヤーと見なすことはできない。

…

ウ BAMF [「第62課難民移民情報センター短報」](#) (2024年2月5日)

警察の評判と仕事に関する現在の世論調査

汎アフリカ調査ネットワーク「アフロバロメーター」が実施した世論調査を引用してあるメディアが報じたところによると、警察と接触したところのあるガンビア人の43%が、警察の援助を得るため、あるいは不特定多数の問題を回避するために賄賂を支払わなければならなかったと回答した。警察に援助を求めたところのある回答者の大多数が、必要な援助を得るのは困難だったと報告している。回答者の33%が、警察が過剰な力を行使したと報告している。それ以上の詳細は不明。回答者の39%によれば、警察は犯罪行為に関与している。回答者の24%が、政府は国内で犯罪と闘っていると考えている [注6]。

注6 The Standard : 「ガンビア人の43パーセントが警察に賄賂と回答—2023年調査」 (2024年2月1日)

※ 原文ドイツ語。訳文は、DeepL プロによる日本語訳に修正を加えた仮訳です。

エ 米国国務省「[人権状況報告 2022年 - ガンビア](#)」（2022年3月20日）

ガンビアは、選挙で選ばれた大統領を擁する多党制の民主共和制国家である。国内外のオブザーバーは、2021年12月の大統領選挙と4月の国会議員選挙について、広範ではあるが些細な行政上の問題はあったものの、自由、公正、透明かつ平和的であったと評価した。

...

オ 記事「[ガンビア独立選挙管理委員会が、国会議員選挙の最終結果を発表](#)」 The Point（2022年4月11日）

わずか4か月前の大統領選で地滑りのように勝利したアダマ・バロウ現大統領の政党である国民人民党（NPP）が、53議席中18議席を獲得した。

統一民主党（UDP）が15議席を獲得し、PDOISが2議席、APRCが2議席、NRPが4議席を獲得し、12の無所属候補者が議席を獲得した。

...

(2) APRC 所属国会議員等の状況

ア 米国国務省「[人権状況報告 2022年 - ガンビア](#)」（2022年3月20日）

セクション4 政府内の汚職及び透明性の欠如

...

汚職：現政府の役職に留まった多くのジャメ政権時代の当局者のほか、2017年以降に選出・任命された当局者を含め、政府当局者の間には汚職の文化が根強く残っていた。小規模な汚職が常態化していた。市民は、政府規制のハードルを下げするためや、港湾施設を利用するため、政府サービスを受けるために、頻繁に賄賂を要求されていると報告した。警察の汚職は依然として日常的な問題であり、警察官が日常的に車を停車させて、違反をでっち上げたり、ドライバーを解放するための金銭を要求したりした。

...

イ EASO「[EASO COI レポート：ガンビア 国別フォーカス](#)」（2017年12月）

2.11 APRC の幹部

ヤンクバ・コレイ

カニフィング市議会の市長。APRC の広報担当者として知られ、同性愛を公然と

糾弾することで有名。(セクション3.3、ゲイ、レズビアン、同性愛者及び性同一性障害 (LGBT) の人々を参照)。解任要求に反して、市議会の市長の職位に留任。

ファパカリー・トンボン・ジャッタ

2017年の議会選挙を控えた最後の定期会合まで国民議会の議長を務める。ジャメの亡命以降、暫定指導者を務める。

APRCの非合法化に向けた新政府の計画は、記録されていない。

※ 訳文は、法務省入管局(当時)による仮訳です。

ウ ガンビア国会「[第6期立法府国会議員](#)」(2024年2月22日最終閲覧)

ガンビア国会ウェブサイトの国会議員紹介ページによると、国会議員58人のうち、第6期立法府(2022~2027年)では2人が、第5期立法府(2016~2022年)では5人が、APRC所属議員として掲載されています。

第6期立法府でAPRC所属とされている国会議員は、下記2名です。

シェリフ・スタール氏 [Hon. Sheriff Sarr]

ジェシュワン [Jeshwang] 選挙区、APRC 党員

スレイマン・ジャメ氏 [Hon. Sulayman Jammeh]

ブンドウンガ・クンダ [Bundungka Kunda] 選挙区、APRC 党員

エ ガンビア国会「[委員会及び委員一覧 \(2022~2027年\)](#)」(2024年2月22日最終閲覧)

同じくガンビア国会ウェブサイトの委員会及び委員一覧によると、前記APRC所属議員2人は次の国会委員会に委員として所属しています。

常任委員会

スレイマン・ジャメ氏

- ◆ 公選常任委員会 [Public Appointment Standing Committee] 委員長
- ◆ 国会事業委員会 [Assembly Business Committee] 委員
- ◆ 財務決算委員会 [Finance and Public Accounts Committee] 委員

シェリフ・スタール氏

- ◆ 規則委員会 [Standing Orders Committee] 委員
- ◆ 防衛・安全保障常任委員会 [Standing Committee on Defense & Security] 委員
- ◆ 公共事業委員会 [Public Enterprises Committee] 委員

特別委員会

スレイマン・ジャメ氏

- ◆ 地方行政府・土地、オンブズマン及びIEC特別委員会 [Select

Committee on Regional Government & Land, Ombudsman and IEC] 委員長

シェリフ・スタール氏

- ◆ 政府事業の実施状況モニタリング特別委員会 [Select Committee on Monitoring Implementation of Govt Projects] 委員

国会国際代表団及び構成員

スレイマン・ジャメ氏

- ◆ アフリカ議会連合 (APU) 代表団 団員
- ◆ ガンビア - ベネズエラ友好使節団 団員

シェリフ・スタール氏

- ◆ ACP-EU 共同議会代表団 団員

(3) ジャングラーズの状態

ア OFPRA 「[ガンビア：ジャングラーズ](#)」(2021年9月27日) <EUAA COI Portal 収録>

…EASO によると、ジャングラーズの状態を裏付ける法的文書はなく、アダマ・バロウ新政権によっても解散も武装解除もされていない [注 18]。

注 18 EASO, 2017年12月, p.40

4. ジャングラーズに対する裁判と不処罰

2017年初頭、ヤヒヤ・ジャメの選挙敗北を受けて、多くのジャングラーが海外に逃亡した。しかし EASO は、ムサ・ジョンソン [Musa Johnson]、パ・サンネ [Pa Sanneh]、イスマイラ・ジャメ [Ismaila Jammeh]、オマル・アリアス・オヤ・ジャロウ [Omar Alias Oya Jallow]、アマドゥ・バジエ [Amadou Badjie] 及びマリック・ジャッタ [Malick Jatta] など、捜査当局に協力したジャングラーズのメンバーらが 2017年5月に身柄を拘束されたと指摘している [注 55]。

UNCHR の報告によると、ジャングラーズらは TRRC で重大な人権侵害を自白した後、2018年に釈放された。政府は、ジャングラーズが2年間も罪状なしで拘留されていたことを説明し、釈放を正当化した。しかし、ガンビアの市民社会は衝撃を受け、移行期正義プロセスに対する信頼は損なわれた [注 56]。

2019年の初め、政府は、起訴の有無に関する TRRC の勧告を待つ間の2年間の拘留の後、自身らの犯罪容疑について証言したジャングラーズのメンバーを釈放した。数多くの被害者団体が、これらの釈放を非難している [注 57]。

…

2019年1月に始まった TRRC の公聴会は [注 59]、全国のラジオやテレビで広

く報道された。公聴会は健康危機のため 2020 年に半年間中断されたが、2020 年 9 月に再開された [注 60]。

...

約 2 年にわたるテレビ公開の公聴会の後、TRRC は政権の犠牲者や協力者を含む 370 人以上の証人の話を聞き、さまざまな人権侵害についての前大統領とその協力者の責任を示す圧倒的な証拠を集めることができた [注 65]。しかし、RFI が指摘するように、調査員らは、行われたすべての人権侵害について書かれた記録を見つけることが困難だったため、この証拠は証言に基づくものであった [注 66]。

HRW は、「TRRC の任務のひとつは、人権侵害や虐待に最大の責任を負う人物を特定し、訴追を勧告することである」と指摘する。しかし、TRRC の報告書が公表された後、どのような行動を取るかはガンビア当局の判断に委ねられている [注 67]。

注 55 EASO, 2017 年 12 月, p.60-61

注 56 国際連合、2020 年 7 月 9 日、p.5-10

注 57 HRW, 2019 年 12 月 4 日

...

注 59 HRW, 2021 年 5 月 24 日

注 60 米国国務省、2021 年 3 月 30 日

...

注 65 HRW, 2021 年 5 月 24 日

注 66 RFI, 2019 年 8 月 10 日

注 67 HRW, 2021 年 5 月 24 日

イ EASO 「[EASO COI レポート：ガンビア 国別フォーカス](#)」(2017 年 12 月)

2. 旧職員の状況

前政権の職員に関連して新政権がこれまで講じてきた措置を見ると、事例ごとに進行するための、過去の司法調査に向けた慎重を期すアプローチを採用する傾向がわかる。しかし、依然として、訴訟は未決状態であるため、評価するのは時期尚早である。

...

2.6 精鋭部隊（国防軍及び大統領親衛隊）

2017 年 5 月に、以下の大統領親衛隊の隊員が起訴された。マリク・マンガ (Malick Manga)、ヌハ・パドジェ (Nuha Badjie)、スレイマン・サンボー (Sulayman Sambou)、モモドゥ・ジャノレジュ少佐 (Major Momodou Jarju)、ムスタファ・サネ (Mustapha Sanneh) 及びミカエル・ジャッタ (Michael Jatta)。司法省は、上記の個人を、トゥ

マニ・ジャロウ及びアブドウリエ・ゲイエの殺害への関与で告発した。ジャロウ及びゲイエは、ジャメの政党事務所の職員であったが、2016年12月の大統領選挙でジャメが敗れた後、行方不明になった。殺害されたと見られている。

2.7 国家情報局

これまでに逮捕された NIA の職員は 9 人に上る。パンジュール治安判事裁判所は、2017年3月に、9人に有罪判決を言い渡した。最高幹部2人は、NIAの最高幹部、ヤンクパ・パドジェ事務局長及びシーク・オマー・ジェング、運営部長で、あった。

...

2.10 ジャングラール

ジャングラールは、ジャメに同行して赤道ギニアに亡命した者もいれば、行き先がわかっていない者もいる。2017年5月に、2004年に発生したデイダ・ハイダーラの殺害に関連して、サナ・マンジャング (Sanna Manjang) 及びカウス・カマラ (Kawsu Camara) (別称、爆撃手) に対する逮捕令状が交付された (セクション 3.1、報道の自由を参照)。サナ・マンジャングは、他の殺人罪でも告発されている。

警察の情報によれば、2017年5月に、軍警察の職員であったジヤグラール9人を拘禁したということである。現在、複数人の強制失踪、拷問及び殺人に関連する犯罪捜査が行われている。被拘禁者の身元に関する公式発表は行われなかった。伝えられるところによれば、拘禁されたのは、ムサ・ジョンソン (Musa Johnson)、パ・サネ (Pa Sanneh)、イズメイラ・ジャメ (Osmaila Jammeh)、オマル・アリアス・オヤ・ジャロウ (Omar Alias Oya Jallow) アマドゥ・パドジェ (Amadou Badjie) 及びマリク・ジャッタ (Malick Jatta) であるということである。上記の個人は、協力的な態度を示し、捜査官を被害者の遺棄現場に案内したということである。このジャングラールは、2017年7月時点で、出廷していなかった。

※ 訳文は、法務省入国管理局による仮訳です。

(4) 真実和解・賠償委員会の報告と司法当局の対応

ア OFPRA「[ガンビア：ジャングラールズ](#)」(2021年9月27日) <EUAA COI Portal 収録>

...バロウ大統領が選挙キャンペーン中に公約した真実和解・賠償委員会 (TRRC) (2018年10月設立) [注4] は、すでに一部の被害者と被告人の意見を聞くことができ、人権侵害の問題で進展が見られた [注5]。同時に、治安部門は大規模な改革を行った [注6]。さらに、2017年3月末には、人権侵害の被害者に援助と法的支援を提供する「人権侵害の被害者のためのガンビアセンター」が設立された。

注4 RFI, 2018年10月15日

注5 米国国務省、2021年3月30日

注6 Institute for Security Studies (ISS), 2020年11月

イ [HRW「スイス／ガンビア：裁判にかけられるジャメ時代の犯罪」](#) (2024年1月5日)

ガンビアでは、ジャメ政権が崩壊して以降、ジャメ政権時代の犯罪に対する訴追がわずか2件しか進んでいない。2021年12月24日、ガンビアの真相究明・賠償委員会 (TRRC) の最終報告書は、ジャメとその取巻きら69人が人道に対する罪を犯したと認定し、彼らの訴追を求めた。2022年5月25日、ガンビア政府はTRRCの説明責任に関する勧告を受け入れたが、行動計画はなかった。

2023年5月12日、ガンビア政府は、TRRCが開始した調査を完了させ、立件に向けた事件記録を作成するための特別検察庁の設立を指示する、長く待ち望まれた詳細な実施計画を発表した。ガンビアと西アフリカ諸国経済共同体 (ECOWAS) のハイブリッド法廷が創設され、最も重大な犯罪の訴追を実施することになる。ガンビアとECOWASは、ハイブリッド法廷を開発するための合同技術委員会を設立した。

…

参照：

(報告書等)

欧州難民支援機関 (EASO) 「EASO Country Origin Information Report, The Gambia – Country Focus (EASO COI レポート：ガンビア 国別フォーカス)」(2017年12月)、オンライン：<https://coi.euaa.europa.eu/administration/easo/PLib/coi-report-gambia.pdf>

国連人権理事会 「Report of the Special Rapporteur on the promotion of truth, justice, reparation and guarantees of non-recurrence (真実、正義、賠償、不再帰の保障の促進に関する特別報告者の報告書)」(2020年7月9日)、オンライン：<https://documents.un.org/doc/undoc/gen/g20/175/91/pdf/g2017591.pdf?token=fpukDa5GhNz1vi41YN&fe=true>

_____ . 「Report of the Working Group on Enforced or Involuntary Disappearances on its mission to the Gambia (強制的又は非自発的な失踪に関する作業部会ガンビア調査団報告)」(2018年8月27日)、オンライン：<https://undocs.org/Home/Mobile?FinalSymbol=A%2FHRC%2F39%2F46%2FAdd.1&Language=E&DeviceType=Desktop&LangRequested=False>

ドイツ連邦移民難民庁 (BAMF) 「Briefing Notes, Gruppe 62 – Informationszentrum Asyl und Migration (第62課難民移民情報センター短報)」(2024年2月5日)、オンライン：<https://www.bamf.de/SharedDocs/Anlagen/DE/Behoerde/Informationszentrum/Briefing>

[Notes/2024/briefingnotes-kw06-2024.pdf?_blob=publicationFile&v=2](https://www.refugeestudies.jp/Notes/2024/briefingnotes-kw06-2024.pdf?_blob=publicationFile&v=2)

ヒューマン・ライツ・ウォッチ (HRW) 「Switzerland/Gambia: Jammeh-Era Crimes on Trial (スイス/ガンビア：裁判にかけられるジャメ時代の犯罪) (2024年1月5日)、オンライン：<https://www.hrw.org/news/2024/01/05/switzerland/gambia-jammeh-era-crimes-trial>

_____ . 「Gambia: Commission Uncovered Ex-President's Alleged Crimes - Criminally Investigate Yahya Jammeh (ガンビア：委員会が元大統領の犯罪容疑を暴くーヤヒメ・ジャメの犯罪を調査) (2021年5月24日)、オンライン：<https://www.hrw.org/news/2021/05/24/gambia-commission-uncovered-ex-presidents-alleged-crimes>

_____ . 「Gambia: Commission Uncovers Ex-Dictator's Alleged Crimes - Yahya Jammeh Accused of Murder, Torture, Rape (ガンビア：委員会が元独裁者の犯罪容疑を暴くーヤヒメ・ジェメが殺人、拷問及びレイで糾弾される) (2019年12月4日)、オンライン：<https://www.hrw.org/news/2019/12/04/gambia-commission-uncovers-ex-dictators-alleged-crimes>

_____ . 「Gambia: Ex-president tied to 2005 murders of Ghanaian and Nigerian migrants (ガンビア：2005年のガンビア人及びナミビア人移住者の殺害に全大統領が関係) (2018年5月16日)、オンライン：<https://webarchive.archive.unhcr.org/20230519112613/https://www.refworld.org/docid/5b87ddac4.html>

フランス難民・無国籍庇護局 (OFPRA) (OFPRA 「Gambie: Les Junglers (ガンビア：ジャングラーズ) (2021年9月27日)、オンライン：https://coi.euaa.europa.eu/administration/france/PLib/2109_GMB_Junglers_154201_web.pdf

米国国務省 「Country Report on Human Rights Practice 2022 – The Gambia (人権状況報告 2022年 - ガンビア)」 (2023年3月20日)、オンライン：<https://www.state.gov/reports/2022-country-reports-on-human-rights-practices/the-gambia/>

_____ . 「Country Report on Human Rights Practice 2021 – The Gambia (人権状況報告 2021年 - ガンビア)」 (2022年4月12日)、オンライン：<https://www.state.gov/reports/2021-country-reports-on-human-rights-practices/gambia/>

_____ . 「ガンビア人権報告書 2020年版 (入管庁仮訳)」 (2021年3月21日)、オンライン：<https://www.moj.go.jp/isa/content/001368705.pdf>

ベルテルスマン財団 (Bertelsmann Stiftung) 「BTI Country Report 2022 – Gambia (BTI 国別報告 2022年 - ガンビア)」 (2022年)、オンライン：<https://bti-project.org/en/reports/country-report/GMB>

ポーランド外国人庁 (UDSC) 出身国情報部門 (WIKP) 「ガンビアの治安状況と民間人への脅威 (Sytuacja bezpieczeństwa i zagrożenia dla ludności cywilnej w Gambii.)」 (2023年6月6日)、

<https://coi.euaa.europa.eu/administration/poland/PLib/99.pdf>

(記事等)

ジャーナリスト保護委員会 (CPJ) 「ECOWAS court rules Gambia violated rights of journalists (ECOWAS の法廷がガンビアがジャーナリストの権利を侵害したと判断)」(2018年2月14日)、オンライン：<https://cpj.org/2018/02/ecowas-court-rules-gambia-violated-rights-of-journ/>

ラジオ・フランス・インターナショナル (RFI) 「Gambie: début de la commission vérité et réconciliation sur la dictature Jammeh (ガンビア：ジャメ独裁政権に関する真実和解委員会の開始)」(2018年10月15日)、オンライン：

<https://www.rfi.fr/fr/afrique/20181014-gambie-lancement-commission-verite-reconciliation-dictature-yahya-jammeh>

_____ . 「Gambie: les junglers, un groupe de liquidateurs aux ordres de Yahya Jammeh (ガンビア：ヤヒヤ・ジャメ指揮下の粛清実行組織「ジャングラーズ)」(2018年8月10日)、オンライン：<https://www.rfi.fr/fr/afrique/20190810-gambie-trrc-junglers-crimes-organisation-liquidateurs-audiences>

The Point 「IEC announces final Legislative Election results (ガンビア独立選挙管理委員会が、国会議員選挙の最終結果を発表)」(2022年4月11日)、オンライン：<https://thepoint.gm/afrika/gambia/headlines/iec-announces-final-legislative-election-results>

The Standard 「43 percent of Gambians admit bribing police — 2023 survey (ガンビア人の43パーセントが警察に賄賂と回答—2023年調査)」(2024年2月1日)、オンライン：<https://standard.gm/43-percent-of-gambians-admit-bribing-police-2023-survey/>

(その他)

コロンビア大学グローバル・フリーダム・オブ・エクスプレッション「Federation of African Journalists (FAJ) and others v. The Gambia (アフリカ・ジャーナリスト連盟外対ガンビア事件)」(2024年2月22日最終閲覧)、オンライン：

<https://globalfreedomofexpression.columbia.edu/about/mission/>

ガンビア国会「National Assembly Members, The Sixth Legislature (第6期立法府国会議員)」(2024年2月22日最終閲覧)、オンライン：

https://assembly.gm/?page_id=264

_____ . 「List of Committee and Membership [2022-2027] (委員会及び委員一覧 (2022～2027年))」(2024年2月22日最終閲覧)、オンライン：

<https://www.assembly.gm/wp-content/uploads/2022/05/Committees-of-the-NA.pdf>